

R7年度第1回審議会（R7.7.25開催）における各委員からのご意見について

資料1

No.	ご意見の概要	ご意見の内容	県からの回答
1	「環境こだわり農産物」の認知度について	「環境こだわり農産物」の認知度について、深掘りした資料（認知度の推移等）を次回の審議会で示していただけないか。	環境こだわり農業の認知度における近年の推移について、①県政世論調査（H30、R6年実施）、②県政モニターアンケート（毎年度実施）のそれぞれの結果をお示しします。 【資料 p.2～3】
2	「環境こだわり農産物」のシール表示について	「環境こだわり農産物」のシールの表示の有無によって、売れ行きが変わるかや、高くても買ってもらえるようになるのかという点について、県の考えを聞きたい。	「環境こだわり農産物」のシール表示について、その有無による購入の違いなど、直接的な調査はこれまで実施していませんが、関連する過去の調査結果を踏まえ、一定の効果があると考えています。 【資料 p.4】
3	米・茶以外の品目におけるオーガニック農業の取組について	・オーガニック農業について、米と茶以外の品目では難しいという印象を受ける。 ・茶と米以外で、具体的な生産者の支援や、農産物の消費者へのアピールなどについて、県の取組を紹介してほしい。	オーガニック野菜などの畑作物について、①過年度の取組、②次年度以降の取組予定をそれぞれ紹介します。 【資料 p.5～6】
4	「環境こだわり農業」や「オーガニック農業」にかかる経営モデルの情報提供について	「環境こだわり農業」あるいは「オーガニック農業」について、経営的に上手くいっている経営モデル（ロールモデル）を新規就農の方に情報提供されてはどうか。	・米については、県作成の「経営ハンドブック」において、経営モデルの一例をお示ししています。 ・また、野菜については、オーガニック野菜担い手確保・育成事業（R5～7年度実施）において、講師である農業者から、経営上の利益や所得、ならびに経営に占める資材の割合等、経営モデルの一例をお示しいただいています。 ・特に、野菜については、栽培技術が未確立のものが多い側面もあることから、県では、既に取り組んでおられる先進農業者から新規栽培者に対し、技術指導や販路相談ができる仕組みづくりを検討しているところです
5	オーガニック農業にかかる情報提供について	「みどりの食料システム戦略」に有機農業の取組面積について、最終的に25%という目標が定められ、生産者、流通サイドが多面的に取組をしていく必要がある中で、事務局として情報があれば、そのときに情報提供してほしい。	県内の取組の一つとして、オーガニックビレッジ（有機農業の拡大に向けて、生産から消費まで一貫した取組を、農業者、事業者、住民などの関係者が参画の下、地域ぐるみで進める市町村のこ）の取組を紹介します。 【資料 p.7～11：①甲賀市、②近江八幡市、③日野町】

環境こだわり農業の認知度の推移について

1. 県政世論調査結果について

[H30、R6 年度に実施。回答数は H30 2,940、R6 3,717]

- 地域別については、H30、R6 年度ともに大津・湖南地域の認知度が低い傾向である。
- 地域別の増減については、湖東地域のみ増加した。また、甲賀地域の減少幅が大きい。
- 性別については、女性の認知度が高く、減少幅も小さい。
- 年代別については、高齢層で認知度が高い傾向にあった。若年層では H30 から R6 年度の減少幅が大きい。

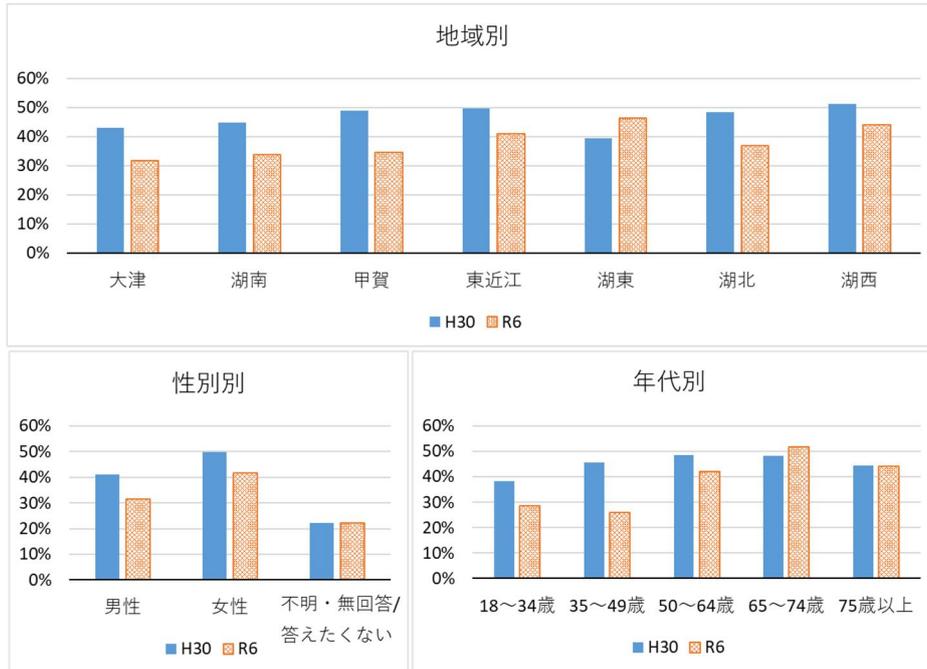
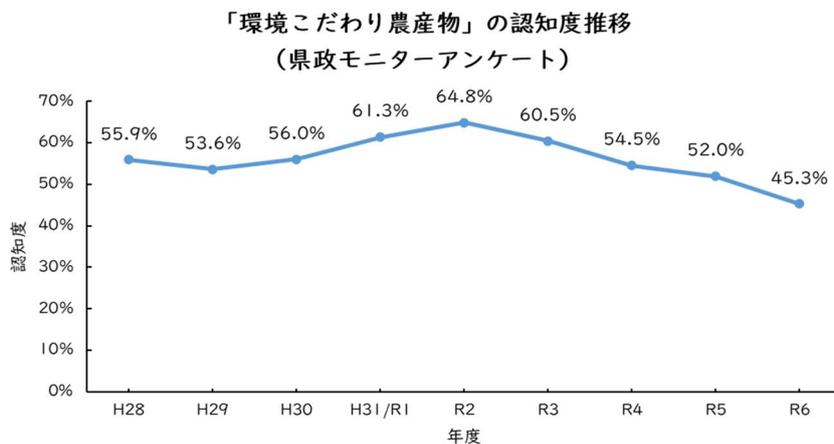


図 県政世論調査による属性別経年推移について

2. 県政モニターアンケート(毎年度実施)結果について

[県政モニターアンケートは県政世論調査の補完として実施。回答数は毎年 200～300 程度]

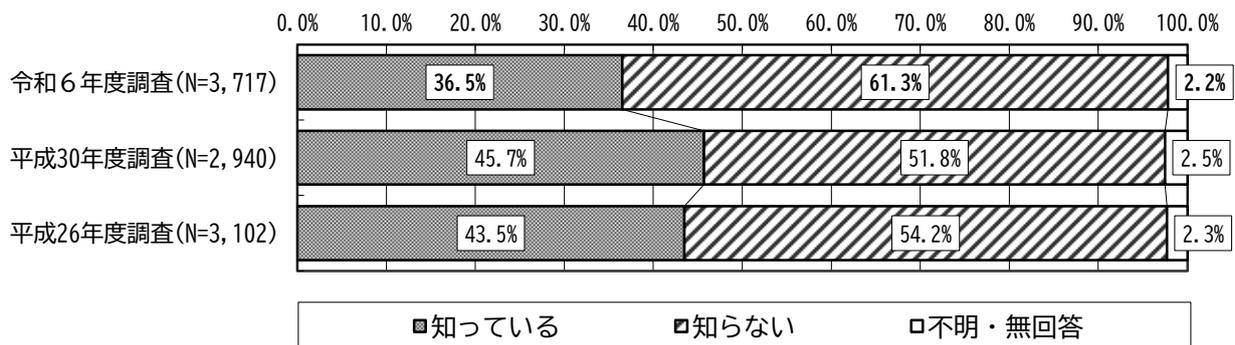
- 認知度の推移は下図のようになり、R1 年度までは概ね上昇傾向であったが、R2 年度をピークに低下傾向にある。
- 大津・湖南地域の認知度が低い点や高齢になるほど認知度が高い傾向は県政世論調査と同様。



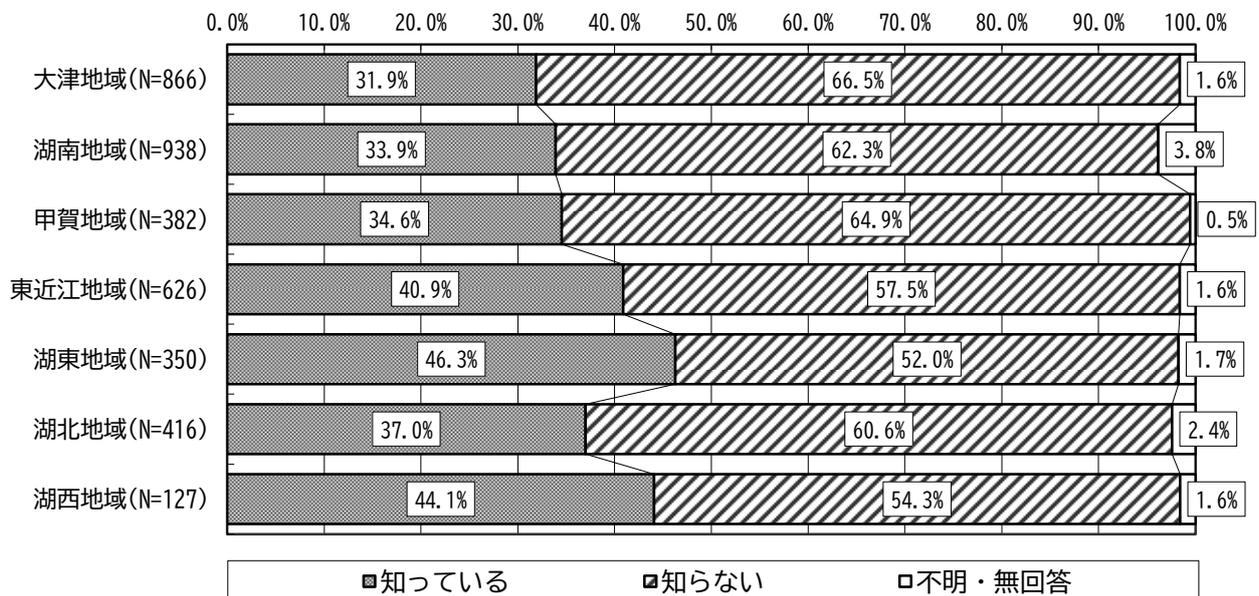
第57回県政世論調査（令和6年度）結果（抜粋）

（1）「環境こだわり農産物」の認知度

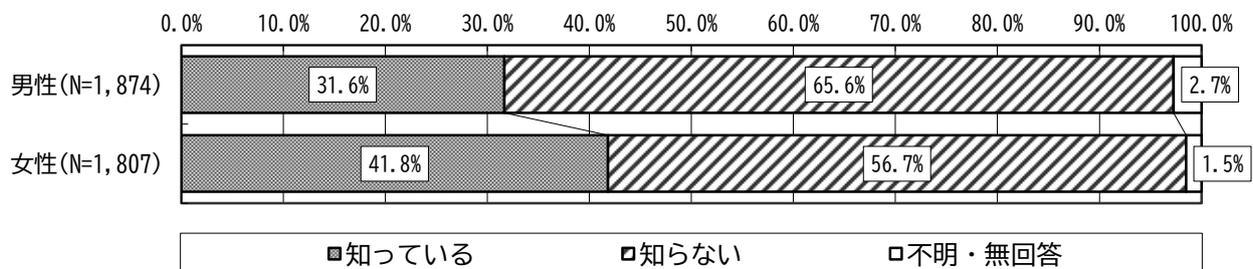
問21 あなたは、「環境こだわり農産物」を知っていますか。（○は1つだけ）



【地域別】



【性別】



「環境こだわり農産物」のシール表示について

「環境こだわり農産物」のシール表示について、その有無による購入の違いなど、直接的な調査はこれまで実施していませんが、関連する下記の調査結果を踏まえ、シール表示は一定の効果があると考えています。

●「環境こだわり農業に係る県民意識調査」(平成 18 年実施) 有効回答数 892 人

Q1.「環境こだわり農産物」を購入したいと思いますか。

A1.

価格	2割～3割高 程度でも購 入したい	1割高程度な ら購入したい	価格が同程 度なら購入し たい	特に意識し て購入した いと思わな い	その他	無回答者
割合	7.4%	40.6%	39.9%	7.8%	1.5%	2.8%

→価格が少々高くても購入したい意向の方が半数程度おられることから、その方々をターゲットとして、「環境こだわり農産物」であることを示す必要がある。
その方法の一つが、シール(ラベル)。

Q2.農産物の安全性の情報を得るために、表示を見る方(全体の 79.7%)におたずねします。どのようなラベルや表示をみて購入されますか(いくつでも)。

A2.

ラベル	環境こ だわり認 証マ ーク	エコファ ーマー マー ク	有機 JAS マーク	特別栽培 農産物	産地	賞味期限	その他	無回 答 者
割合	36.3%	15.8%	24.9%	16.6%	69.6%	69.3%	3.2%	2.7%

→表示を見る方のうち、36.3%は「環境こだわり認証マーク」の表示を意識いただいている。



過年度および今後のオーガニック野菜等、畑作物に関する県の取組概要について

I オーガニック野菜担い手確保・育成事業について(令和5～7年度実施)

1 目的

県内でオーガニック栽培による野菜の生産・販売をビジネスとして展開できる農業者を確保・育成すること。

2 事業内容

農薬・化学肥料不使用農産物を扱う流通業者である株式会社坂ノ途中(京都市)に委託し、オーガニック野菜の取組希望者(公募)に対して以下の研修プログラムを実施。

- (1)座学研修 オーガニック野菜の生産・流通・販売に係る連続研修会
- (2)事業計画作成 (1)や個別指導によるオーガニック野菜の事業計画等の作成
- (3)体験研修 オーガニック野菜の生産・流通・販売現場における実地研修
- (4)ネットワーク構築 受講者同士や講師等とのネットワークづくりや勉強会等への参加

3 事業実績

(1)受講者 R5:6名、R6:10名、R7:6名

(2)研修実績

①座学研修の内容と講師(座学は各年度5～6回開催)

就農体験談:ラウアイ柏木氏(奈良県)、HATAKEYA 川崎氏(三重県)

植物生理学:伊賀ベジタブルファーム村山氏(三重県)

施肥設計法:田島蓮園田島氏(愛知県)

流通販売実態:やおやワンドロップ(京都市)、株式会社雨風太陽
(EC サイト「ポケマル」運営)、坂ノ途中バイヤー等

就農支援制度:県みらいの農業振興課職員

その他:デザイナー早川氏(農場紹介パンフレット作成への助言)

②体験研修先(個人または集団で訪問)

生産ほ場:近江園田ふぁーむ(近江八幡市)、クサツパイオニアファーム(草津市)、野菜と旅する(東近江市)、くさおか農園(長浜市)、みなもの畑(長浜市)、音吹畑(京都市)、ラウアイ(奈良県)、HATAKEYA(三重県、伊賀ベジタブルファーム(三重県)、あずまファーム(石川県)

流通販売:やおやワンドロップ(京都市)、坂ノ途中(京都市)

③ネットワーク構築

SNS グループによる情報交換、栽培技術等のオンライン勉強会、先輩農家等との交流会等

(3)研修の評価

先輩農家や販売関係者等から、オーガニック野菜の取組の難しさや消費者のリアルな評価等を聞き、実際に作業を体験し、自分の事業計画の甘さを指摘されることで、受講者自身が足りないものを認識し、今後の



方向性を明確にすることにつながったと考えられる。

研修終了後の感想もおおむね好評であった。

4 研修受講後のオーガニック野菜取組状況

研修受講後おおむね1年経過した時点でアンケート調査を実施。

R5 年度受講者：6名中4名から回答があり、回答者全員がオーガニック野菜に取組中。

R6 年度受講者：R8 年2月に調査予定。

II 今後のオーガニック野菜等の技術開発と普及推進に係る取組予定について

1 目的・取組概要

環境保全型農業をこれまで推進してきたトップランナーとしてオーガニック農業をより一層推進するため、これまで生産が限定的な野菜や大豆等の畑作物の取組を強化する。

2 内容

(1)オーガニック農業アドバイザーの新設

- ・既にオーガニック農業に取り組み栽培技術等に精通する先進農家、および流通・販売等に精通する事業者を「オーガニック農業アドバイザー(仮称)」として認定(登録)。
- ・同アドバイザーと新規取組者とをマッチングし、技術指導(主として野菜)や販路に係る相談を行うことにより、栽培ノウハウの取得や販路の確保を促進。

(2)農業大学校へのオーガニック栽培(野菜等)のカリキュラムの導入

- ・今後の新規就農者および担い手候補を育成する農業大学校において、オーガニック栽培のカリキュラムを導入し、オーガニック農業の理解を深めるとともに、オーガニック栽培の基本を取得し、就農後の新規取組を促進。

(3)野菜・大豆のオーガニック栽培技術開発に向けた試験研究

- ・本県では栽培が拡大していない野菜(ニンジン、ブロッコリー、サツマイモ等を想定)の技術確立に向けた試験研究を実施。
- ・本県の水田輪作体系(水稻の連年栽培でなく、数年に1度大豆等の畑作物を組み合わせる栽培体系)においても、JAS認証取得が可能となるよう、畑作物の基幹となる大豆や麦のオーガニック栽培技術の確立に向けた試験研究を実施。

(4)モデル地区(オーガニックビレッジ)創出を目指す市町への支援

- ・オーガニック農業の出口戦略として重要となる「生産から販売まで一貫して取り組むモデル地区」の創出を目指す取組を支援。水稻や茶のみならず、野菜についても対象として取り組んでいただけるよう、県としても伴走支援。

＜対策のポイント＞

地域ぐるみで有機農業の取組を推進するため、みどりの食料システム法に基づく特定区域の設定等に向けて取り組む市町村等が行う、生産から消費まで一貫して有機農業を推進する取組の試行や産地づくりに加え、産地と消費地が連携した取組等を支援し、有機農業の推進拠点となる地域（オーガニックビレッジ）を創出します。

＜事業目標＞

有機農業の面積（6.3万ha〔令和12年〕）

＜事業の内容＞

地域ぐるみで有機農業の取組を推進するため、みどりの食料システム法に基づく**特定区域の設定等**に向けて取り組む市町村等が行う、**生産から消費まで一貫した有機農業**を推進する取組の試行等を支援します。

1. 有機農業実施計画の策定

有機農業実施計画の策定及び特定区域の設定等に向けた検討会の開催や試行的な取組の実施等を支援

2. 有機農業実施計画の実現に向けた取組の実践

有機農業実施計画の実現に向けた取組の実践や課題解決に向けた調査等を支援

3. 飛躍的な拡大産地の創出

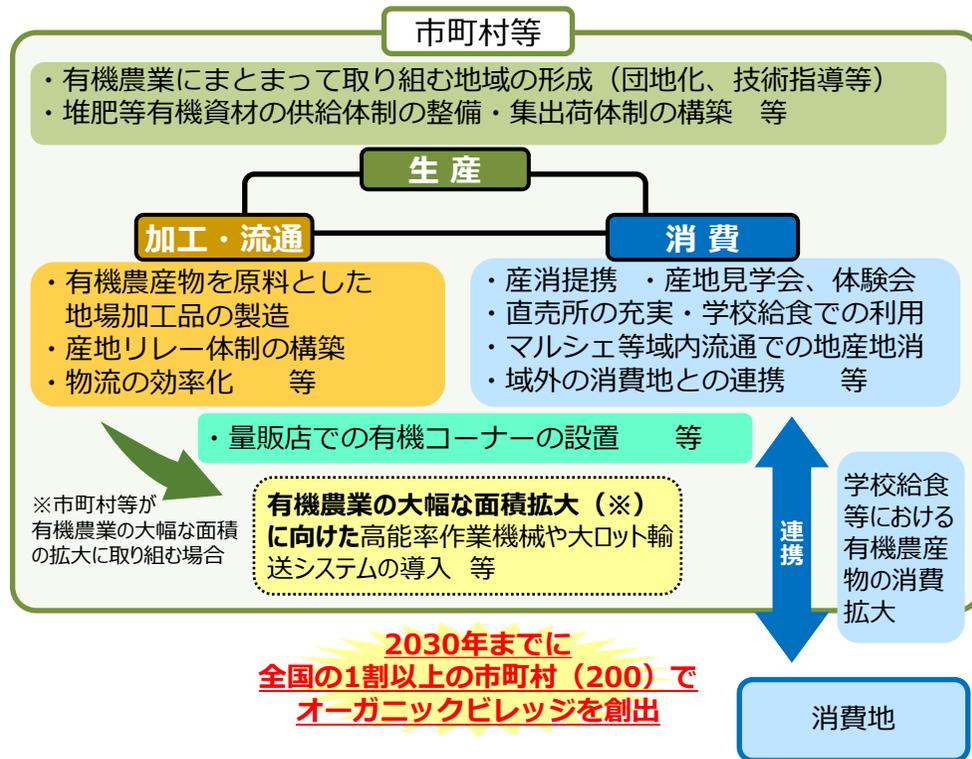
2の取組を開始した翌年度以降に、有機農業の取組面積の大幅な拡大に向けて取り組む地域を支援

※1、2について、産地と消費地が連携して消費拡大に取り組む場合に上限を加算します。

※以下の場合に優先的に採択します。

- ・事業実施主体の構成員がみどり認定等を受けている場合
- ・事業実施地域内の有機農業の取組が、地域計画に位置付けられている場合
- ・事業実施計画においてフラッグシップ輸出産地と同一の対象地域・対象品目に関する取組が位置付けられている場合 等

＜事業イメージ＞



＜事業の流れ＞



R4開始

甲賀市 (滋賀県)

～主な品目～
茶 (煎茶等)

実施体制

甲賀市、甲賀市農業再生協議会、(一社)滋賀県茶業会議所、茶商、普及・茶業指導所、JAこうか、生産者

面積情報

有機農業取組面積：22ha 耕地面積に占める割合：0.4%
(令和3年度末時点)



1 成果目標

有機農業の取組面積の拡大(茶) R3年度 9.6ha → R9年度 11.6ha
有機農業に取り組む農業者数の増加(茶) R3年度 14人 → R9年度 18人以上

2 有機農業を拡大していく上での課題

市内ではオーガニック茶(土山茶、朝宮茶)の生産が始まっているが、産地としての認知度は極めて低い。
本事業をきっかけに、オーガニック茶の生産を一層拡大し、持続可能な生産方法による茶の産地として甲賀市が知られることで生産拡大を目指す。

拡大をはばむ雑草の紹介

ササ類、シダ類(周年)
【対策】除草剤を使えないので、現状は手除草しているが、労力が多大で改善が必要。



▲茶園周辺の雑草

3 課題に対する取組のポイント・成果

生産者、流通業者、関係機関等がオーガニック茶の生産・加工・流通における現状や課題の検討を重ねることで、課題を認識する。
栽培上の問題となっている手除草を省力化するため、道路除草などで導入が始まっている温湯などを活用した物理的防除技術を検討、導入をすすめる。

ポイントとなる技術

物理的防除法
①茶園型温湯除草機の開発
道路で活用されている温湯除草機を乗用型防除機に搭載し、茶園で省力的に導入できる新技術の検討
②草焼バーナーの導入
他作物で導入されている草焼バーナーによる物理的防除技術の導入



▲温湯除草機の実演の様子

【取組による定量的な成果】
オーガニック茶生産面積 R3 9.6ha → R4 14.3ha
オーガニック茶生産者 R3 14人 → R4 17人

4 主な取組内容

- ①生産
 - ・今後のオーガニック茶生産体制構築に向けて、地域ぐるみで有機栽培茶を生産販売している宮崎県高千穂町の視察を実施。
 - ・オーガニック栽培に適した品種の検討や、栽培実証ほを一人1筆設置し、それぞれの生育状況等を全員で共有するなどの、栽培技術研修会を開催。
- ②加工・流通
 - ・オーガニック茶の加工技術や品質の向上に向けて食味分析や求評会を実施。
- ③消費
 - ・オーガニック茶の消費拡大に資するため、訴求点等、消費者ニーズに関するオーガニック茶需要等の市場調査を実施。
 - ・各種検討結果を、関係者で共有。
- ④輸出
 - ・輸出拡大に向けて検討会を開催。



釜炒り茶工場の見学
(宮崎県高千穂町)



有機栽培茶求評会

近江八幡市（滋賀県近江八幡市）

R6補正
R7当初

41

背景・課題

近江八幡市は古来より内湖と水路網に囲まれた低地の水田と一体のシステムを構築しており、資源循環型の農業を営んできた。

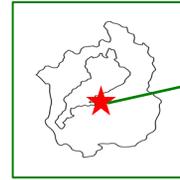
しかしながら、近年農業の担い手が高齢化し後継者のいない農家が増えていることや、資材の高騰などの課題があり、次世代の人材確保や、地産地消に取り組む仕組みの構築が急務となっている。

成果目標

- 有機農業の取組面積の拡大
令和6年度 36ha → 令和11年度 63ha
- 有機農業に取り組む生産者数の増加
令和6年度 9人 → 令和11年度 18人

主な取組内容

- 【生産】座談会の開催、省力化を目指した栽培技術の実証実験 等
- 【加工・流通】市の実態に合わせた販路開拓（今後実施予定）等
- 【消費】農産物のPRや食育イベント等の開催による啓発活動 等



近江八幡市

構成員

近江八幡市オーガニックビレッジ推進検討会（滋賀県、近江八幡市、JAグリーン近江、生産者等）

品目

水稻、野菜(とうもろこし・にんじん等)



R7年5月17日に特定区域である円山町にて市長がオーガニックビレッジ宣言を行った。



スマート水管理システムの導入により、雑草の抑制と高温対策の検証を行った。



オーガニックビレッジ座談会を実施し、生産者や消費者等が集まり、オーガニックの推進に向けて意見交換を行った。

今後の取組

生産者や消費者等、様々な立場の人が集まって座談会を開催し、有機農業に関する意見交換を行った上でオーガニックビレッジを推進している。今後は、担い手育成の土台作りや、栽培マニュアルの策定による生産者への支援を進める。併せて、就農型地域おこし協力隊の活用や、農産物のPRや食育イベントの開催により、消費者に対して啓発活動を行っていく。

近江八幡市役所

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236番地

企画課

TEL：0748-36-5527

Mail：010202@city.omihachiman.lg.jp

農業振興課

TEL：0748-36-5576

Mail：011002@city.omihachiman.lg.jp

問い合わせ先

オーガニック(有機)農業ってなに??

オーガニック農業…農業のやり方のひとつ

- 化学的に作られた肥料(化学肥料)を使わない
- 化学的に作られた農薬(化学合成農薬)を使わない
- 土の力をいかし、環境に負担をかけない

オーガニック農業で
つくられたお米や野菜などを
オーガニック農産物というよ!

お店では、のマークをつけて
売られているんだ。

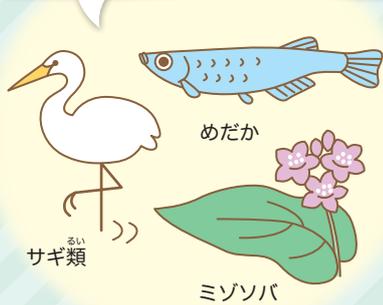


	通常の農業	環境こだわり農業	オーガニック農業
化学肥料			
化学合成農薬			
環境への配慮		環境によりやさしいやり方で栽培	

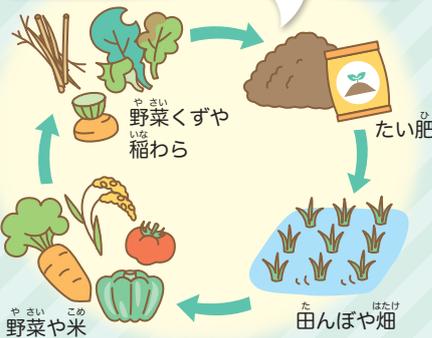
オーガニック農業はどんなところが良いの? たいへんなことはなに?

良いこと

① 田んぼや畑などにすんでいる生きものが増える



② 捨てていた資源も使うことができる



③ 外国から船を使って肥料を運ばない場合に、地球温暖化につながる温室効果ガスが減る



たいへんなこと

④ 農薬の代わりに人の手で雑草や虫をとるなど、農家の方の手間や時間がかかる



⑤ 収穫できる量が少なくなる。また、その年の虫の多さや、天気によって収穫できる量が大きく変わってしまう



オーガニッククイズ

Q お店に並ぶ農産物に貼られている次のマークのうち、オーガニック(有機)農産物のマークはどれかな?

① ② ③

答えはウラのページにあるよ! - 10 -

オーガニック(有機)農業

<定義>

- ・ 化学的に合成された肥料及び農薬を原則使用しない
- ・ 遺伝子組換え技術の利用等を行わない
- ・ 農業生産に由来する環境への負荷をできるだけ低減する

オーガニック農業では、単に、化学肥料、化学合成農薬を使用しないだけでは農作物が収穫できないため、自然が持つ機能を最大限に活用しながら、次のような取り組み(例)によって栽培されます。

取り組みの例

●化学肥料を使用しない

化学肥料の代わりに次のような有機質のものを田んぼに施します。

- ・ たい肥(植物残さ、家畜ふんたい肥をたい積・発酵させたもの)
- ・ 有機質の肥料(油かす、くず大豆など)



●化学合成農薬を使用しない



除草機などで、田んぼの中を除草(2~3回の機械での除草と残った雑草は手で抜き取り)します。畦の草も、草刈機で刈り取ります。

オーガニック(有機)農産物

オーガニック農産物は、オーガニック農業で作られた農産物のことです。このうち、JAS法※という法律に基づくルールによって生産し、国で登録された認証機関によって認証された農産物には、「有機JASマーク」を貼り、「オーガニック」や「有機」という言葉を用いて販売することができます。

有機JASマーク



太陽と雲(雨)が植物を育むことをイメージしたマークです。

お店では、このマークを目印にして探してみてください。

※農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律

『環境こだわり農業』と『オーガニック農業』について

どちらの栽培方法も環境にやさしい取り組みですが、オーガニック農業では、より生きものの種類や数が多くなるという研究結果があります。

慣行：通常の栽培方法
 農薬節減：環境こだわり農業など
 有機：オーガニック農業

栽培方法の違いによる個体数(生きものの数)の比較

	生物群(生きものの種類)	栽培方法間の比較(少ない<多い)
植物	レッドリスト植物※	慣行<農薬節減(環境こだわり)<有機
クモ	アシナガグモ属	慣行<農薬節減(環境こだわり)・有機
トンボ	アカネ属	慣行<有機
カエル	トノサマガエル属	慣行・農薬節減(環境こだわり)<有機
鳥	水鳥	有機栽培の水田が多い地域ほど多い

※ 絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト
 表は、令和元年8月28日(国)農研機構プレスリリース「(研究成果)有機・農薬節減栽培と生物多様性の関係を解明」を元に近江米振興協会が作成

滋賀県産のオーガニック米を「オーガニック近江米」として販売する取り組みを進めています。詳しくは近江米振興協会のHPをご覧ください。

こちらの二次元バーコードからご覧いただけます



オーガニッククイズ

Q お店に並ぶ農産物に貼られている次のマークのうち、オーガニック(有機)農産物のマークはどれかな?

A 正解 ②

